

## ●2009年3月28日生理学会学術研究委員会

出席：白尾、久保、福田、加藤（総）、八木、関野、丸中、佐々木、加藤（昌）、柚崎の各委員

欠席：少作、鍋倉、久保川（2010年大会）の各委員

### 報告事項

1. メール会議での結果を受けて新規時限付き分化細目（配付資料参照）を岡田会長に提案したことが報告された。

2. 2010年盛岡大会の準備状況について佐々木委員から、昨年12月から準備委員会を開催し、実行委員会、財務委員会を設定する予定である。プログラム委員長は久保川先生である。盛岡大会に関する内容を生理学会ホームページに5月に掲載予定である。UMINを使った演題登録を予定しているが、キーワードについてはシンポジウムと連動したものにしたい旨が報告された。

3. 2009年京都大会について下記のことについて丸中委員から報告された。

総会は7月29日ルームAで開催予定。同時にランチョンセミナーが3つ計画されているので、総会でも弁当を出せるようにしたい。奨励賞は授賞式のみ行う予定である。

### 審議事項

1. 2010年盛岡大会拡大プログラム委員会について生理学会各種委員会委員長を含めた拡大プログラム委員会を4月中のなるべく早い時期に盛岡で開催し、特別講演、Named lecture、企画シンポジウム数、公募シンポジウム数等について決定することとなった。

2. 2010年盛岡大会「シンポジウムとキーワードとの関連」について、佐々木委員から別紙1Aの発言があり、意見交換を行い、シンポジウム連動のキーワードの設定をするためには時間的に相当急いでシンポジウムを決定する必要があるとの意見が出た。また、演題と関連したシンポジウムを重ねた時間帯にしないためにもシンポジウムとの関連性を予め演題登録者にチェックしてもらうことが必要であり、その意味からもシンポジウムとキーワードとの関連を検討すべきとの意見があった。

3. 2010年盛岡大会「参加登録の仕方」について、佐々木委員から別紙1Bの発言があり、意見交換を行った。加藤（総）委員から、UMINでは、登録の際、登録者に選んでもらう項目を比較的簡単に増やすこと

ができる、との指摘があり、それに基づき、学会でのプログラム編成用にキーワードを選んでもらうのとは別に、演題登録の際に、現在、科研費で指定されているキーワードから、第1～第3志望くらいまで選んでもらう可能性を考えていただきたい。これによって、プログラム編成の参考になるのに加え、生理学会参加者の中に、科研費の各キーワードに対してどのくらいの潜在的研究者人口がいるのか、という実態調査を兼ねることができるのではないかと、という意見が出された。

また、UMINを使って参加登録及び参加費の決済ができないかという提案があったが、無理であろうということになった。

大会参加費については、白尾委員長からなるべく安くしてほしいとの要望が出された。また、2010年盛岡大会からはIUPS用の上乗せ(10%)がなくなるので少なくともその分は安くしてほしい旨の発言が久保委員からあり了承された。

### 4. 科研費細目「筋肉生理学」について

関野委員、八木委員、加藤（総）委員から、筋肉生理関係の科研費の応募に関する情報が寄せられ、現在、筋肉生理の研究をしている生理学会員はほとんどが「生理学一般」へ申請していることが判明した。今後これらの応募をより容易とするために、生理学一般に「筋」というキーワードを入れてもらうように要望することとなった。

筋肉生理学の申請者数は非常に少なくスケールメリットがないため、現状のままではますます応募数が減少するであろうことが推定された。加えて、神経科学分科が今後脳神経科学と変わる可能性が高いので、「筋肉生理学」細目も変質する可能性が高いとの情報があった。今後この細目の応募にどのような変化が起こるかを見極めた後、今後の対策を考えることとなった。

5. 佐々木委員から盛岡の解剖学会ではイメージングに関する連携シンポジウムを組む予定なので、生理学会から3～4人推薦をしてもらいたいとの要望があった。今後この問題は、加藤（総）、久保、福田の各委員が中心となって解剖学会と連携して、シンポジストを決定することとなった。（参考：3月30日に開催された解剖学会との話し合いを受けて、解剖学会は企

画渉外担当理事の河田先生、生理学会は学術研究委員長  
の白尾が窓口となり、連携シンポジウムのための会  
合を開催することとなった。詳細は解剖学会との話し  
合いの報告書をご覧ください)

6. 加藤(総)委員から盛岡大会で学術研究委員会企  
画として科研費シンポジウムを開催することが提案さ  
れ、了承された。今後は加藤(総)委員と鍋倉委員が  
中心となって企画を練ることとなった。

## 2009年3月28日生理学会学術研究委員会議事録 別紙1A, 1B

### A「シンポジウムとキーワードとの関連について」

1. 一般演題の中からそれぞれのシンポジウムでシ  
ンポジウム講演として発表していただけるような演題  
がある場合に、それを簡単に見つけ出してその発表者  
がシンポジストになってもらうことが望ましい。

2. ポスター発表題を展示会場の各セッションに振  
り分ける場合にも、関連するシンポジウム等により分  
類をしておく(キーワードと組み合わせ)て展示発  
表の日時や場所(セッション)等の振り分けに有効に  
使えるし、Abstract集の分類作成にも使えそうである  
(但し、全ての一般ポスター発表演題がそれぞれのシ  
ンポジウムにあてはまるとは限らないので工夫が必要で  
ある。

以上の理由から、ポスター発表演題を各シンポジウ  
ムに対応させて分類してプログラム作成時のポスター  
発表会場への割り振りを簡略化することと、シンポジ  
ウム発表候補者を見つけ出して各シンポジウムに一般  
の発表者からもそれぞれのシンポジウムに加わって  
もらう機会(多分各シンポ1名ぐらい)を作ることを目  
的とし、今回は今までのキーワード群に加えてシンポ  
ジウムテーマも一つのキーワード群にしてトライアル  
で1と2をやってみたい(UMINに可能性について問  
い合わせ中)。

(但し、上記のような企画シンポジウムへの一般演題  
の取り込み以外に、シンポジウムテーマそのものの公  
募(いわゆる公募シンポジウム)も別途行う予定で  
す。)

### B「参加登録の仕方について」

ホームページからの登録方式にする場合原則的に各  
個人ごとの登録にする。しかし、ソフトの修正によ  
っては大学ごととか講座ごとのような登録(集計)も可  
能だという業者もいるので、後者の方法が可能であれ  
ば従来方式のやり方(郵送での申し込みのフォーム)に  
近くなるので生理学会員には親近感がわくかも知れな  
い。また、プログラム集等の郵送をまとめて行い費用  
を軽減できる。従って、後者の可能性について今業者  
に検討してもらっている。

## ● 会員委員会報告書

委員長：吉村 恵

委員：鍋倉淳一，富永真琴，小山なつ

### 1) 特別会員の推薦

12名の評議員から岡崎国立共同研究機構長であった佐々木和夫先生を特別会員に推薦したいとの書類が提出された。委員会では、佐々木和夫先生の業績、研究内容および学術行政の発展への貢献は大きなものがあり、特別会員に相応しいとの合意を得た。常任幹事会では特別会員の候補とすることに特に異論は出されず、総会で承認を得ることになった。

### 2) 新評議員の選出

8名の会員が評議員として推薦された。業績、研究歴、生理学への貢献から8名全員を評議員候補とした。総会で承認を得ることになった。

### 3) 常任幹事の停年制の導入

常任幹事に停年制の導入を提案した。選挙当日満65才以上に達している会員は常任幹事の候補者としなない。ただし、会長候補には停年を設けない。原案を作り総会で承認を得ることになった。